

鉢呂経産大臣の辞任騒動にみるマスコミの低レベル ～ゴシップの臭いに群がったピラニア記者の伝言ゲーム～

後志管内の選挙区から初の経産大臣として起用された鉢呂氏がわずか9日間で辞任することになった。辞任の原因となったのは「死の町」「放射能をうつすぞ」という発言とのことだそう。しかし、「死の町」発言が辞任の要因だったとは考えにくい。福島第一原発周辺は「死の町」と形容されてもおかしくない状況であり、こうした形容はすでに多数のメディアで使用されていた。ヒロシマ・ナガサキ・チェルノブイリ・・・いずれも「死の町」と形容されてきた。放射能汚染によって生命系存続への深刻な影響が長期間にわたって残り、立ち入りも禁じられ、流通さえ止まってしまった町はまさに「死の町」そのものであり、こうした言葉で形容されても何らおかしくはない。復興・再建にあわい期待をいづく住民や関係者の方々にとっては、わかっている事だけに「死の町」という表現は心に突き刺さったことだろう。しかし、その現実を受け入れない限り新たな展開が始まらないことも事実だ。高濃度の放射能汚染地帯になった浪江町では、復興にかける老町長の思いとは別に、青年部を中心とした若い世代のメンバーが新たな代替地を求める要望書を提出した。バラバラな場所へ避難しながら見通しのない復興にかけるより、皆がまとまって新たな新天地で再興を図りたいとする若者たちの思いは当然であろう。ましてや、メンバーのほとんどが子育て中である。被曝することが分っていながら、幼子を留めて置くことは親として絶えられないことだ。

視察に入った鉢呂氏はインタビューに答え、「市街地は人っ子一人いない、まさに死の町という形だった」と心情を正直に語ったのだろう。正直ではあったが脳が甘かった。「原発は0にする」「新規原発の建設は再考する」など菅元首相の「脱原発」の上を行くような発言で、原子力マフィア連中から一挙一動を狙われているという緊張感が足りなかった。すでにリングにあがったボクサーと同じで、一瞬のすきが命取りになることを理解しきれていなかった。夢の大臣になって浮き足立ち、直接が下がったところにカウンターの決まった格好だ。

しかし、**鉢呂氏辞任の原因になったのは、やはり「放射能をうつすぞ」発言である**。しかし、この言葉、新聞各紙でもニュアンスが微妙にちがっており、本当のところ何と言ったのか、未だにはっきりしていない。どうも妙なのだ。新聞各社の表現は以下の通り

【事実行為について】

「放射能をうつしてやる」(産経新聞) 「放射能をうつしてやる」(共同通信)
「放射能をつけちゃうぞ」(朝日新聞) 「放射能をつけたぞ」(毎日新聞) 「ほら、放射能」(読売新聞)

【当人の弁明】

「言ったかどうかちょっと定かではない」(産経新聞)
「(記者に)近づいて行って触れることもあったかもしれない。そういうこと(放射能をつけたぞ)は言っていないと思う」(毎日新聞)
「(現場に)親しいマスコミの皆さんが多く、被災地の話をしたというのが真意だ。(放射能をうつすとか)そういう発言はしていないと思う」(読売新聞)

ことの詳細を調べてみると、第一原発の視察後に防災服のまま帰宅した鉢呂氏の自宅前に記者団が待ち構えていた。いくつかの質問のやり取り後、鉢呂氏がそれらしきことを言った相手は毎日の記者だったようだ。わりと親しい関係にあったようで、「防災服にはまだ放射能がついているのではないか」との会話の中で上記のニュアンスの発言があったようだ。個人的なやり取りの中でのことだったことから、伝言ゲームのように伝わり各社オフレコ情報扱いとして流れていたようだ。それをフジテレビがニュースで放映し、それを受けて共同通信が配信。あわてた各社が一斉に後追い報道をしたようなのだ。**伝言ゲームの域を出ない情報のため、大臣が言った台詞が各社バラバラになってしまったのだ**。

ここで重要なのが毎日の姿勢である。最初から報道する気があれば当事者の立場にいた毎日はスクープできたわけだ。しかし、それをしなかったということは本来、記事にする気がなかったか、記事にするほどの中味ではなかったからだ。周りにいた記者が聞き取ったのか、毎日の記者自身がしゃべったのはわからないが、鉢呂失脚を画策する者たちにとって格好の餌を与えたことになる。**この発端は毎日記者の「防災服にはまだ放射能がついているのではないかと」の低レベルな質問であり、うかつにもそれにのった鉢呂氏の脳の甘さだった**ということだ。衆愚政治という言葉があるが、今の政治はマスメディア衆愚政治に陥っている。

鉢呂氏の発言が軽率かつ配慮に欠けたことは事実だ。しかし、大臣を辞任するほどの中味なのだろうか？個人的なレベルでの会話があたかも公式の場で発言したかのごとく扱われ、ネット世界でいうブログ炎上状態と化し、ついには大臣辞任まで発展するというヒステリックなこの状態の方がよほど異常に思える。私が私的な場で話したことが「学校教師の問題発言」としていちいち責任を取らされていたら、数え切れないぐらい処分されている。

格差社会の自虐的な心理が大臣に蔓延している時、為政者はどうやって不満のエネルギーの矛先を権力者の側から反らすか。太古の昔から人類がやってきた方法と同じことをやる。「生贄」を捧げるのだ。生贄の儀式によって大衆の不満は、切断された首の血と共に流され一時の恍惚を味わう。こうして大衆は常に為政者によってマインドをコントロールされていく。ジャーナリズムとは、常にこうした為政者の手法を見破り、大衆を覚醒させるべき役割をこなすべき存在でなければならない。しかし、日本の新聞・TV はいともたやすく為政者の手法の手の平で踊らされ、コマーシャル料をもらいながらゴシップネタで食べるようになっていく。

- 誰がいつどこで誰に対して何をどのように言ったのか、正確な事実確認がなざりされている。
- 大手新聞やTV局は不正確な情報に基づいて、街宣車的役割を果たしてしまっただけだ。
- 東京都知事や大阪府知事など、公的な場で数多の問題発言を繰り返してきたが、辞任にまで追い込むような報道はされていない。報道姿勢に一貫性・倫理性がなく、意図的・恣意的である。
- かつて「安全神話」で国民を洗脳し、かくも危険な原発を地震国に54基も設置し、甘い汁をしゃぶってきた野党の面々が被災者の代弁よろしく追及する姿は笑止千万であり、厚顔無恥はなほだしいわけだが、こうした点への追求姿勢は見られない。
- 野田首相は何ら養護する姿勢なく、あっさり切ったわけだが、あまりにもあっさり過ぎる。そもそも農業に詳しい鉢呂氏をあえて経産相に任命したこと自体、不純な動機があったのではないかと。TTP参加と原発推進継続へ政策をすすめるために、「批判の急先鋒になりかねない人物をあえて経産大臣に任命すること懐柔した」と見るとこのあっさり加減はよく符合する。つまり「懐柔」はしてみたものの不都合になったということだ。

この一件で一体誰がいちばん喜んでいるかを想像すると、真っ先に浮かぶのが北海道新聞の顔だ。地元の対抗勢力の議員が自らの出身省庁の大臣になるとは彼女も夢夢思っていなかっただろう。道警の不正経理問題をはじめ、道政全般に敵しい道及姿勢を見せていた鉢呂氏だっただけに、彼女にとっては最も避けたい「上司」だったはずだ。高橋道政と一体的に教育政策をすすめてきた道教委の幹部の皆さんも同様だろう。それだけに道政改革を期待してきた人々の思いは複雑であり、街頭インタビューでも「落胆した」とする人が圧倒的な数である。「放射能がうつる」という言葉は「弱者への差別発言」であり、被災者の苦しみに対する共感が薄べらだったことが言葉として出てしまったことだ。それだけに信頼を回復することは容易でない。菅元首相が年金未納問題で失脚したとき、信頼回復と自省のために頭を丸めて四国お遍路の旅に出たが、それに匹敵する何かをアピールしなければ復活はむずかしいかもしれない。政治家として甦るには被曝覚悟で被災地に入り、被災者と苦楽を共にする活動を何年か続ける以外にないだろう。雨の日も風の日もこまめに後志管内の町村を回り続けた経験を、被災地で実行することだ。罵声を浴びるかもしれない。試練であり苦行だ。苦行を貫けば信心は必ずよみがえるものだ。その経験を元にして、今度は「脱原発」に向けて揺るがぬ意思と哲学を持って政治に命をかけることだ。今回は、似合わない大臣の椅子に目がくらみ、自らの本分を忘れた(元々なかった?)ことが結局、災いしたのだ。経産大臣として「TTPへの積極的参加」や「泊原発1・2号機の再稼働」に前向きな姿勢を示して見せたが、グローバル経済競争の歪は世界的に明らかになっている。鎖国してでも日本を守るぐらいの姿勢がなければ、植民地的な立場に置かれ続け、やがては経済も空洞化することになる。今回の辞任を、農業出身であることの自らの本分を再確認し、より高い思想・哲学に鍛え上げるチャンスととらえることだ。それができれば本物の政治家になれる。これまでは農業団体や労働団体の組織票で当選できた。これからは自らの本物の主張を通して、より次元の高い政治家になってくれることを期待したい。

今回は、鉢呂氏の辞任騒動にしぼった内容になった。しかし、この件でもっとも問題にされるべきはマスメディアのあり方だ。瑣末なゴシップネタに、ピラニアのごとく群れて襲い掛かり食い漁る姿はまっとうな姿とは思えない。本質的な問題を追求できない、しない状況は今に始まったことではないが、この国難に際してあまりにもレベルが低すぎると感じる。残念ながら多くの国民はこのマスメディアのゴシップに一喜一憂している状況だ。事を仕掛けている奴らがいることを忘れてはいけない。原発マフィアの勢力が仕掛けた周到な罠はこれからも続く。